令和元年度　【第４回】

北広島市小学校給食運営委員会
北広島市中学校給食運営委員会

議　　案　　書

○ 日　時　　令和元年11月19日（火）午後5時30分～

○ 場　所　　中央公民館　研修室1・2

北広島市教育委員会

学校給食センター

次　第

1．開　　会

2．教育部長あいさつ

3．委員長あいさつ

4．議　　案

議案第1号　新たな小学校給食調理場施設における食器について

5．そ　の　他

6．閉　　会

議案第１号

新たな小学校給食調理場施設における食器について

現在、策定中の実施計画（基本設計）では、新たな小学校給食調理場施設（仮称 防災食育センター）における食器については、引き続きＰＥＮ樹脂製食器（ポリエチレンナフタレート）の使用を行い、安全安心で魅力ある学校給食の提供を行うこととしております。

つきましては、本日の小学校給食運営委員会・中学校給食運営委員会においてご協議いただき、皆さまのご意見を賜りたくお願い申し上げます。

概要等

現在、道内の学校給食では磁器製食器、樹脂製食器が主に使用されているところであります。

本市におきましては、磁器製食器の特徴や意義を踏まえつつ、食器の破損に伴う異物混入、調理員や配膳員の重量的な負担、破損した食器を起因とした労働災害なども総合的に勘案し、引き続きＰＥＮ樹脂製食器（ポリエチレンナフタレート）の使用を行うものであります。

また、新たな小学校給食調理場施設（仮称 防災食育センター）では、食材同士が混在しない美味しい給食を提供できるよう、副食用のお皿を２枚にするなど、献立に応じた食器に盛り付けを行い、より家庭に近い環境の整備を図るなど、食育の推進に取り組むこととしております。

参考資料

小学校給食調理場における食器について

１　北海道の調査

平成３０年度において完全給食又は補食給食を実施している小学校１０２５校のうち、樹脂製の食器を使用している学校は７１６校（69.8%）、磁器製の食器を使用している学校は３７３校（36.4%）との調査結果となっております。（※複数回答のため100%を超過する。）

２　旭川市の調査

旭川市において給食用食器導入状況の調査を実施、平成３０年２月末時点で道内１７９市町村のうち１２８市町村（72%）、全国の中核市４８市のうち３１市（65%）においてPEN樹脂食器が使用されているという結果となっております。

３　PEN樹脂製食器と強化磁器製食器の特徴

	PEN樹脂製食器	強化磁器製食器
材質等	・軽量 ・破損率が低い（年間約0.1%）	・PEN樹脂製食器に比べて重い ・破損率が高い（年間約10%）
安全性・衛生性	・環境ホルモン物質を含まない ・破損しにくく怪我などが少ない ・異物として混入する可能性が低い	・環境ホルモン物質を含まない ・破損しやすく怪我の恐れがある ・陶器に似ており、質感や手触り感が良い
作業性	・洗浄作業が容易 ・軽量で運搬、配膳作業が容易	・重量が重く配膳等作業が困難 ・落下時の衝撃音が大きい
変色・汚れ	・染み込み汚れがない ・黒ずみ汚れが付きづらい	・染み込み汚れがない ・黒ずみ汚れが付きやすい
熱伝導	・熱さが伝わりにくい	・熱さが伝わりやすい
設備対応	・コンパクトな積み重ねが可能	・重量が重いことからコンテナや保管庫の整備が必要

４　今後の取組

食材同士が混在しない、美味しい給食をできるよう副食用のお皿を２枚にする等、家庭での食事に近い環境の整備を図るなど、安全安心で魅力ある学校給食の提供、食育の推進に取り組みます。

その他（報告案件）

仮称 防災食育センターにかかる実施計画（基本設計）の策定状況について

1.　米飯について

米飯については、施設内で炊飯を行いご飯食缶によって配食を行います。
施設内で炊きあげた暖かいご飯を提供することによって、より家庭に近い環境の整備を図ります。
災害時には３日間 ２万４千食の炊き出しを行い、２台のおにぎり成型機を使用しおにぎりを作り避難所に配送を行います。

2.　食器、トレイ、食缶について

食器については、食材同士が混在しない美味しい給食を提供できるよう、副食用のお皿を２枚にするなど、より家庭に近い環境の整備を図ります。

トレイについては、軽量化を図るとともに、より一層の衛生面の向上を図るため、新施設において洗浄・保管を行い各学校に配送を行います。

食缶については、災害時の炊き出しにおいても使用（避難所への配送）することから、保温性が高く、配送トラックへの積み込みの際、重ね合わせがしやすい食缶を選定し利活用を図ります。

3.　コンテナ・配膳台について

　コンテナについては、炊飯の実施に伴う「ご飯食缶」と「お椀」、施設での洗浄・保管に伴う「トレイ」、食育の推進の観点から枚数を増やした「お皿」などを収納するため、コンテナ及び配膳台のサイズが大きくなります。
　また、使用するコンテナの台数も増えることとなります。

4.　配送について

配送については、現在３台のトラックで配送を行っておりますが、新施設では５台で配送を行うことを想定しております。

災害時には本車両を活用し、最大３３か所の避難所に食料（炊き出し・備蓄食料など）を配送します。